



発行 四日市市 企画・編集 四日市危機管理室、(株)アイ・ディー・エー社会技術研究所
監修 片山敏孝 (群馬大学大学院教授、群馬大学広域首都圈防災研究センター災害社会工学研究室)
本圖に掲載した図の一部は、三重県市町村合事務組合の承認を得て、同組合所蔵の「2011三重県共用デジタル地図(数値地図10000)」を使用し、調整したものである。(承認番号:三総合地第163号)

平成27年3月

問い合わせ先 四日市市危機管理室
TEL : 059-354-8119
FAX : 059-350-3022

津波から命を守るために

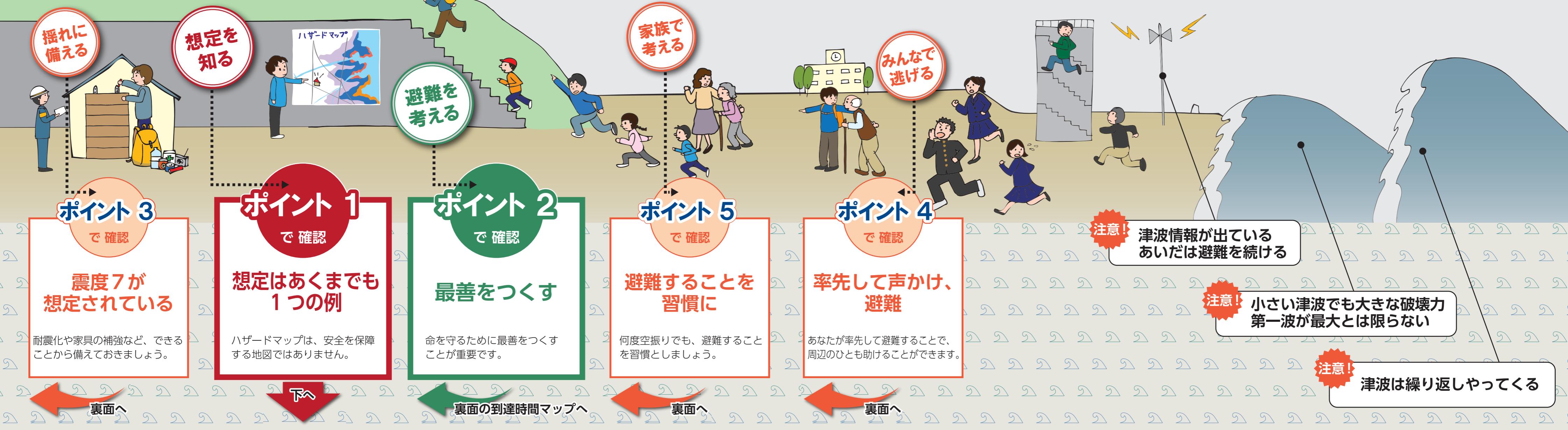
まずは

遠くて高い場所へ避難

遠くに避難できない場合は

最寄りの津波避難ビルや高い建物へ避難

5つのポイントから考えてみましょう



ポイント1 想定はあくまでも1つの例

ハザードマップは、安全を保証する地図ではありません。想定はシナリオのひとつであり、想定どおりの津波が来ると限らないことを理解することが、命を守る第一歩です。

南海トラフ地震は定期的に発生します。
四日市市では過去にも、津波と地震に何度も襲われました。

宝永地震（1707年）

1707年（宝永4年）10月、マグニチュード8.6規模の巨大地震が遠州灘から四国までの沖合を震源として発生しました。地震の規模は我が国最大級で、死者は5千人以上、全壊家屋5万軒以上で、壊れた堤防の合計長は800kmにも及びました。

四日市地域では、津波により海岸堤防が破壊され、家屋倒壊152軒、大破損524軒の被害が記録されています。



↓ 147年後

安政東海地震（1854年）

1854年（安政元年）12月、熊野沖から遠州沖、駿河湾内に至る広い海域を震源とするマグニチュード8.4の地震が発生しました。また、翌日には紀伊水道から四国にかけての南方海域を震源とする安政南海地震も発生し、死者数千名、倒壊家屋3万軒以上という被害をもたらしました。

四日市地域では、全壊11軒、半壊145軒の被害が記録されています。



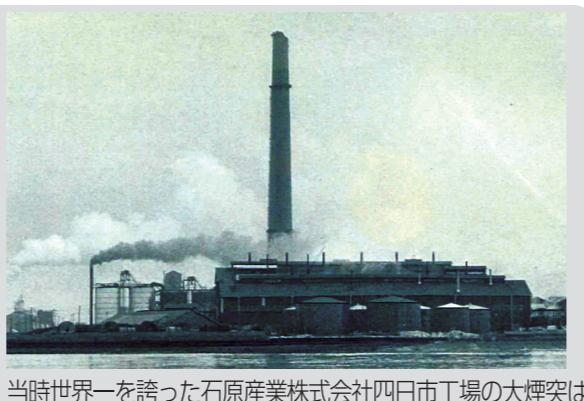
出典：四日市市史

↓ 90年後

昭和東南海地震（1944年）

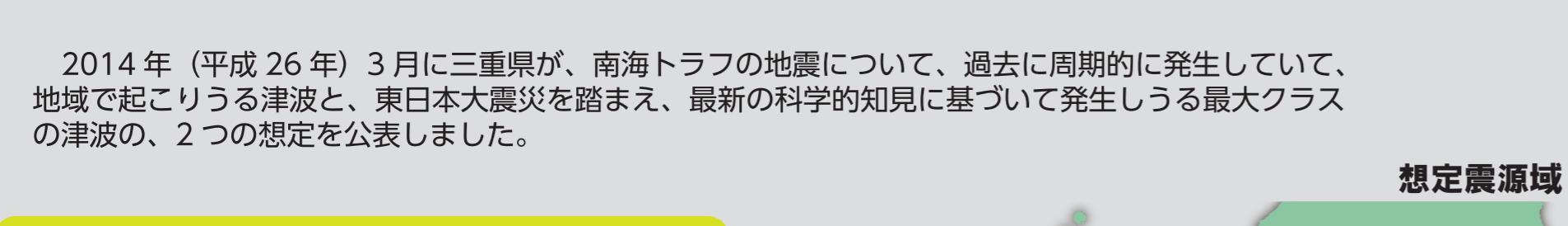
1944年（昭和19年）12月、マグニチュード7.9の地震が発生し、大きな津波が熊野灘から東海沿岸を襲いました。また、2年後の1946年（昭和21年）にはマグニチュード8.0の昭和南海地震が発生しました。

四日市地域では、全半壊の建物1,263戸、死者22人の被害が記録されています。



出典：四日市市史

↓ すでに70年以上経過



約100～150年周期で発生する、歴史的に地域で起こり得ることが実証されている津波
過去最大クラスの南海トラフ地震
発生頻度は極めて低いが、理論上起こり得る最大クラスの津波
理論上最大クラスの南海トラフ地震

津波避難マップでは、理論上最大クラスの南海トラフ地震を想定した浸水深と到達時間を掲載しています。

